

# 古関裕而作曲

## 「塩竈市民歌」を

### 知っていますか？

市制施行を記念して作られた「塩竈市民歌」。知らない人も多いのではないのでしょうか。

令和3年は、市制施行80周年を迎えます。その前に、私たちが暮らす塩竈市を見つめなおしてみませんか。

今話題の、古関メロデー  
当時、街中で流れる

市民歌は、NHK連続テレビ小説「エール」で主人公のモデルになった古関裕而氏が作曲しました。作詞は櫻井宏氏で、「蒼潮」「航路」「海の幸」などの言葉が含まれ、みなとまちとして栄えてきたことが分かります。

昭和16年11月23日に市制施行し、鹽竈町から塩竈市になりました。その記念として、東京日日新聞社現在の毎日新聞社に公募を依頼し、市民歌を決定したとされています。市制施行1周年を祝った運動会が開催されたときに、市民歌が街中に流れたようです。しかし、市制施行直後に太平洋戦争に突入、戦後は、歌詞の一部に時代にふさわしくない部分もあり、歌われなくなってしまいました。

今回は、歴史的資料として、現在では適切でないとされる表現を修正せずに掲載しています。

▲楽譜と歌詞の写しが佐藤市長の家から発見されました

### 塩竈市民歌

作詞 櫻井 宏  
作曲 古関裕而

一 光湧きたつ 蒼潮の  
飛沫に映えて 旭は昇る  
ここ東北に 翼賛の  
旗かぜ騰る わが都  
仰げ栄光ある 塩竈市

二 市民の意気は 火と燃えて  
日毎賑はふ 船舶に  
伸びゆく航路 めざましく  
魚鱗は躍る 海の幸  
興せ首途の 塩竈市

三 歴史に薫る 莊嚴の  
鹽竈神社 鎮まりて  
八百八島 松島の  
絵巻はひらく 観光地  
護れ名に負ふ 塩竈市

四 あゝ昭代の 恵みより  
興亜の気運 もろともに  
栄ゆる市勢 潑刺と  
文化華咲く この繁華  
謳へ我等の 塩竈市

当時のエピソードを  
お寄せください

現在、資料などは見つかっておらず、詳細は分かっていますませんが、市内在住でNPOみなとほがまで活動している佐藤健太郎さんから市民歌のエピソードを聞くことができました。

佐藤さんは「当時は小学生で、学校で歌ったことを覚えています。戦時中だったので、歌いながら市内を行進した思い出があります。市の歴史として残したいですね」と話しました。

市では当時の思い出、歌ったエピソード、作詞家についてなどの情報を集めています。郵送またはフックスで問い合わせ先までお寄せください。

### 動画で再現

今回、市民歌を知ってもらおうと、佐藤さん、市内コーラスグループリリースコールの皆さん、ベイウェーブの協力のもと動画を作成しました。市民歌が誕生した約80年前の塩竈市をイメージしながら、聞いてみませんか。



問 政策課市政情報係

〒985-5850 1 (住所記載不要)

TEL 0355-5728 FAX 0367-3124